

令和3年度第1回長野県住宅審議会における意見・提案要旨と対応について

	意見等要旨	計画（素案）の対応
1) 田中委員	住宅の性能だけでなく、色々なエネルギーや産業のやり方、住宅関連におけるLCCM、県産材利用も含めたところのカーボンニュートラルに向けた動きというのをどれだけ具体的に盛り込めるか。	目標1に脱炭素や地消地産関係を基本的な施策に位置づけ、関連する取組を記載しました。
2) 下平委員	ウッドショックで国産木材が値上がりしているが、もう少し見通しを立てた中での計画性を持つべきであり、その必要性を教育も含めた中でやっていく必要がある。	目標2及び5に人と住まいのかかわる教育や担い手の確保、育成について記載し、教育機関との連携を図ってまいります。
3) 柳澤恵子委員	少子化や、コロナ禍での長野県への移住ニーズが高く、家族ぐるみで移住となると子どもはどうするかということも気になることである、子育て世代を支援するという点についてもう少し具体的なものを入れてもらいたい。	目標2に「ライフステージに応じた住まいの選択」を基本的な施策に位置づけ、子育て世代を支援する取組を記載しました。
4) 小野委員	誰もが安心した住まい、住宅の確保ということが当初計画から毎回の目標に入っており、施策の具体策にどのように実行性を持たせるか。	目標4に公営住宅や住宅セーフティネットの充実、非常時における住まいの応急・復旧体制の強化に関する取組を記載しました。
5) 平賀委員	地域の資源が循環するというイメージが骨子に入れられたらよいと感じる。	目標1に「持続可能な地域内循環に寄与する脱炭素社会の実現」に関する取組を記載しました。
6) 平賀委員	住宅ストック産業の発展を実現していくには、林業を含めるとすごく広く、こちらにも新計画に入れたら良いと思う。	林業分野における産業の発展に関する取組は、「長野県森林づくり指針」に位置付けられており、同指針との連携を図ってまいります。
7) 平賀委員	高齢者が住みやすいという問題と子育てがしやすいという問題も、血縁関係だけでなく違う視点のコミュニティとして子育て世代と高齢者世代、そこに関わるコーディネーターみたいなものが入った暮らしのようなミクストコミュニティが出来上がれば良いと思う。	目標3に「多様な世代が支えあう暮らしの実現」を基本的な施策に位置づけ、関連する取組を記載しました。
8) 下平委員	省エネルギーだけでなく、創エネルギーを取り入れていくべきと考える。	目標1に再生可能エネルギーに関する取組を記載しました。

<p>9) 田中委員</p>	<p>林業について、特定産業として名前を挙げてよいのかとも思うが、森林資源が循環資源のキーということであれば思い切って盛り込み、それがゼロカーボンにつながっていくという流れでも良いかと思う。</p>	<p>「安定的な原木供給体制の整備」や「持続可能な林業生産活動のための担い手の確保・育成」の取組については、「長野県森林づくり指針」に位置付けられており、同指針との連携を図ってまいります。</p>
<p>10) 田中委員</p>	<p>国の会議でも太陽光発電の設置義務化という議論がされており、場所により日照時間がまばらで不公平になってしまうという議論もあったが、長野県は日照条件も良く、思い切った施策の一つとして、太陽光発電の設置義務なり、社会的システムを描くなりして創エネルギーの部分で何か入れられたらいいのかなと思う。</p>	<p>目標 1 に再生可能エネルギーに関する取組を記載しました。</p>
<p>11) 武者会長</p>	<p>エネルギーの視点と資源循環の視点を少し色濃く出していく必要がある。</p>	<p>目標 1 に脱炭素や地消地産関係を基本的な施策に位置づけ、関連する取組を記載しました。 特に長野県ゼロカーボン戦略との整合を図り、計画期間最終年度の令和 12 年度に「全ての新築住宅の ZEH の実現を目指します。」と記載しました。</p>